



西野 克生 (にし の かつお)

平成11年、ご子息の立川消防少年団入団を契機に自らも指導者として消防少年団員の指導に従事しており、平成17年からは副団長として長い間、“将来の地域防災の担い手”となる子どもたちを育成し続けています。

“地域を愛す”

将来の地域防災の担い手の育成

立川消防少年団の指導をはじめられたきっかけを教えてください。

20年以上前の話になりますが、息子が立川消防少年団の団員として入団する際に、当時の指導者の方から「指導者として参加しないか」と誘われたことがきっかけです。

その後、立川消防少年団副団長として消防少年団長を補佐しながら少年団員の指導に携わり、23年にも亘り、将来の地域防災の担い手を育成しています。

立川消防少年団の活動内容(指導内容)について教えてください。

規律訓練、緊急通報、応急救護訓練、消防ポンプの操作等防災に関する知識と技術を学んでいます。30年以上に亘る活動実績のある国立市青柳地区の防火広報など地域の特徴や季節に応じた活動をしています。また、ジャガイモ掘りや、一泊二日のキャンプ活動などの楽しい野外活動もあります。

活動(指導)している中で意識していることはありますか。

団員の個性や考え方を尊重しつつ、規律ある団体行動や奉仕活動などを通じて、社会の基本的なルールをきちんと守り、思いやりの心を持った

責任感のある大人に育つよう意識しています。

立川消防少年団の活動(指導)を通して印象に感じていることはありますか。

子どものときから指導してきた団員が立派に成人して、その中から、東京消防庁職員や消防団員になったり、また私と同じくして消防少年団の指導者になって活躍してくれている彼らの話を聞くことは、大変嬉しく励みになります。消防少年団での活動の経験が活かされ、地域が繋がりを、継承されていくことを願うばかりです。

今後の、立川消防少年団についての展望を教えてください。

コロナ禍もあり、以前のような活発な活動ができていないことが気がかりですが、アフターコロナを見据えて、多様な社会情勢に対応できる幅広い考え方を取り入れることで、団員が成長できればいいなと思っています。

最後に一言お願いします。

私自身の勤務先であるJA東京みどりの経験を、消防少年団員の指導に活かし、ジャガイモの植え付けから収穫に至る体験活動等を通じて、

農業や地域への郷土愛の醸成、食育にも貢献し、消防少年団員個々が地元を誇りに思える活動に繋がっていきたいと思います。



▲ジャガイモ収穫後の様子

少年団の子たちは熱心に話を聞いているようです。



▲ジャガイモの植え付けの様子